

## 令和5年度 長野市消防委員会（議事録）

1 日 時：令和5年7月21日（金）午後3時00分から午後5時00分まで

2 場 所：長野市消防局中央消防署 4階会議室

3 出席者：委 員 19名

事務局 19名（消防局、消防団）

### 4 議事内容

#### (1) 令和5年度 長野市消防局運営方針について

事務局から消防局の現況及び消防局運営方針について説明

#### (2) 消防指令業務の共同運用について

事務局から高機能消防指令情報システムの更新及び指令業務の共同運用について説明

#### (3) 消防団の現況について

事務局から消防団の現況について説明

#### (4) 消防団の組織について

事務局から消防団の組織の経過について説明し、資料4に基づき協議を行う。

### 5 協議内容

#### 【事務局】

今後の方向性について御提案させていただきますので、御協議よろしく申し上げます。

まず、消防団組織について説明いたします。資料4を御覧下さい。

現在、定員は3,150人、基本団員が3,050人、機能別団員が100人といった体制となっております。4月1日現在の実員は2,884人で、内訳は、基本団員が2,812人、機能別団員が72人となっています。こちらを基本団員の実態に合わせた定員数への見直しについて、検討していきたいと思っております。

現状につきましては、図とグラフで説明をさせていただきます。図の方ですが、これは長野市のエリアを6方面に分割した図となっております。右側の棒グラフですが、これは各方面隊の充足率となっております。A、C、D、F方面隊については、充足率が92パーセントから93パーセントで、この辺で定員の見直しが必要な状況となっております。

それから、各種掛金は条例定員数を基礎としている点を考慮と記載しておりますが、これについては、退職報償金、福祉共済、公務災害について、それぞれ掛け金が発生しますが、条例定員に対して実員が少なくなると、掛け金を余計に払うこととなりますので、そのように記載しております。

機能別団員定員の拡充につきましては、前年度から比べて、大規模災害団員が22名増加しております。制度が浸透してきて、今後も増加を見込んでおります。これらを考慮して、機能別団員の拡充を図りながら、3,000人規模を維持していきたいという方向性となっております。現在の定員につきましては、基本団員が3050人、機能別団員が100人という状況ですが、こちらを実態に合わせた基本団員、機能別団員の定員に見直しを図っていきたくと考えております。

**【議 長】**

消防団につきましては、当委員会においても一昨年度、市長からの諮問に基づきまして、委員の皆さんから御意見をいただき、答申をしたところです。また、それ以降も検討いただき、見直しを進めていると承知しています。委員の皆様いかがでしょうか。

**【委 員】**

機能別団員の中に、特定の活動を行うとありますが、具体的に特定というのはどういうものなのか教えてください。

**【事務局】**

特定の活動としましては、大規模災害団員として、大規模な災害があった時に出動する団員の方、その他に一般機能別団員として、例えば音楽隊だけに従事をする団員の方、それから、市役所の職員で支所に勤務をしている方で、昼間のみ災害があった時に出動する方、こういった方々も、特定の活動を行う機能別団員として活動しております。

**【委 員】**

機能別団員が、音楽隊、市の職員を含めて72名で、各分団で1名いるかどうかだと思います。高齢化していく中において、団員数が少なくなるのは、仕方ないことかなと思います。分団を辞められる方は、是非、今までの知識を活かしながら機能別団員になっていただきたいと思います。

それと、処遇改善ということで、消防団員の士気高揚のために年報酬を上げて、装備を充実して、いろいろな面で改善をしていただいています。消防団員の士気高揚については、報酬もそうですが、やはり普段の活動です。コロナ禍で、行事や訓練、諸々の活動ができなかったのですが、それに今までどおり参加して士気高揚をしてもらおう。消防団員には、自分たちの町は自分たちで守るという、そういった高い責任感を持ってもらわないと、これからますます手がなくなるのではないかという気がします。

あと、ポンプ操法ですが、コロナ禍で方法を変えるのもいいと思いますが、これからも同じやり方でいくのか教えてください。やはり、何ヶ月も訓練してきたものを、観客といえますか、参加者が少なく、ただ終わらせればいいというような、そんな形も見えるので、家族の方、知り合いや友達に応援してもらって、士気高揚になるのではないかなと思っています。

**【議 長】**

消防団は地域の中で、皆さん仕事を持ちながら、大変な中で御活躍いただいております。また、委員さんの御意見のとおり、本当にやりがいを持ってやっていただくことが、大事なことだと思います。事務局もこの時勢の中で様々な課題を抱えながら、検討をしていると思いますが、今の意見に対する発言をお願いします。それから、具体的な訓練の今後の進め方についても発言をお願いします。

**【事務局】**

訓練についてですが、コロナ禍の前のような訓練を、これからは行っていきたいと考えております。それからポンプ操法ですけれども、来年ぐらいまでは、今年のような方法で

行いたいと考えております。今年は観客の皆さんに来ていただいて、家族の皆さんなども昨年よりも大勢来ていたと思います。また来年、再来年と、元に戻していくように検討しております。

**【議 長】**

機能別団員制度を導入して、実際にどのような感じですか。様々な課題が当然あると思いますが、導入されてみての感想を教えてください。

**【事務局】**

土砂崩落とかの災害に、バックホーといった重機を持っている方が機能別団員にいますので、そういう方に協力をしていただき、被害が最小限に収まっていると思います。それとドローンを飛ばしていただき、状況を確認できるようになっております。

**【議 長】**

機能別団員の導入は、やはり経験を多く持つベテランの方が、すべての活動は難しいけれども、こういった重要なところで、従事いただくという視点もあったかと思いますが、そのようなベテランの皆さん方からのアドバイスや感想は、聞かれていますか。

**【事務局】**

アドバイスではありませんが、人口が少ないところで、消防団OBの方が機能別団員に入っていると思いますので、避難訓練などに、消防団員がいないところに来てやっていただいていることはあります。

**【事務局】**

補足させていただきますと、大規模災害団員として改めて入団されている方は、平均年齢が57歳で、基本団員としての平均的な在団年数が29.6年です。そういったベテランの方が基本団員を退団されてから大規模災害団員として改めて入団されております。

内訳としましては、階級別に副団長をされた方が1名、分団長をされた方が21名、副分団長をされた方が6名という形で、ある程度階級の高い方も、そのまま大規模災害団員として登録をいただいて、何かあったときにはすぐサポートをしていただける体制が、徐々に構築されております。

**【議 長】**

答申の時に出了意見を思い出したのですが、やはり一般団員の方と、機能別団員の方との連携といいますか、それも一つ大きな課題という御意見をいただいたことを思い出しました。活動にあたっては、そのようなところも念頭に置きながら、また実際に運用しながら、効果的な運用になるようお願いします。

**【委 員】**

消防団員の定数減の関係ですけれど、やはり分団長をやられた方が、そのまま残っていただいて、また団員として活動していただくことは、非常に有効だと思います。

消防団のみなさんは、出初などに出てきて、市民の皆さんの前で披露していただいて、士気を上げていかないと、士気がどんどん落ちてきます。ポンプ操法を披露していますが、家族が見に行くと、「お父さんカッコいい」という形に戻していかないと

思います。家族全員の応援がなければ、胸を張って活動もできませんから。

また会社勤めに行っても、消防団をやっているのだから、有事の際には行かせていただくといった体制が、会社ぐるみでできているような、世の中の意識を向上させていかなければならないと思います。

団員の方と話したときに、魅力はあるけれど、成り手があるかといったらそうではないし、やりがいがないと、その後は続けられないと言っておりました。消防団はボランティア団体で、非常に素晴らしい事を行っているのに、なり手がいないのはとても悲しいことです。消防団の活動はすごく大事です。みんなが苦勞しているのに、もっと光を当ててあげないと変わらないと思います。こんな大事なことをしているという部分で、活動内容を皆さんに周知していただいて。華やかなところも出てきますけど、ほとんど日陰の中で、コツコツと地道な活動しています。本当に魅力ある消防団づくりをするのであれば、もう少し光を当てるような方法を取っていかないと、ますます団員が減少していくと思います。

#### 【事務局】

消防団の人数が減るということは本当に困ることです。欲しいところに団員がいない、消防車の時間がかかるところに団員がいないというのが現実です。その中で、消防団を統合しまして、仮に戸隠でしたら、戸隠分団全部がその火災現場に行くという方策を、分団長にお願いして、地元にいる団員が早く行って初期消火をするようにしております。

#### 【議長】

近年の社会情勢や核家族化の中、団員数の減少や、若い皆さん方への理解促進など、様々な御苦勞があるかと思えます。その中でしっかり消防団活動をしていこうという事で、機能別団員、大規模災害団員といった制度を検討していただき本当にありがたく思っております。

それと、委員さんのお話にありました、本当に御苦勞いただいている消防団員の皆さん方が、志を高く持っていただけるような、地域の応援といいますか、家族の応援といいますか、そんなようなものが、目に見えてあるといいと、私も感じています。これは、何か制度を作るということではなくて、日頃からの活動の周知とか、広報とか、そんなようなものが大変重要になってくるのではないかと思います。

#### 【委員】

進んでやりたい人はなかなかいないし、勤めがあるとできないという方も大勢いて、企業の理解があって、何かあったときには快く出してもらえるような、社会がみんなでも応援できるような、それぐらいはなくてはいけないなど。本当に社会がもっと応援していく、そういう方向性に持っていけたらと思います。

#### 【委員】

消防団の活動を知らせることはすごく重要だと思います。消防団だよりとか、紙ベースですが、例えば、ホームページやYouTubeに動画を配信するとか、こういうことやっていますという動きで配信していくことは必要です。特に若い人たちになっていただきたいので、若い人たちに興味を持ってもらうように、情報の発信の仕方を変えて、今までに

こだわらないやり方が必要だと感じました。

それと、方面隊別じゃなくて地区別で、何処にどういう傾向があるかを分析された方がいい。そこにどうPRをしていくのか、動画の配信もそうですが、考えていくのも必要かなと思います。

なかなか今、個人が大切な世の中になってきたので、ボランティアをやる意識付けが難しいけど、興味がある人も必ずいるはずです。そういう人にアプローチする方法を分析していければ、少しずつ興味を持っていただけたらと思います。

あと定数に報酬の掛け金を掛けるのを見直してもらったらと思いました。そういう見直しを働きかけるのも一つの手で、そういうアプローチの仕方もあると思いました。

#### 【委員】

団員確保について、かなり苦慮されているという話は、私もよく聞きます。現状はその地域に住まいの方と、地域の企業の方から入られている方もいると思いますが、その地域の企業の方っていうのは、どのぐらいの割合でいますか。逆にお勤めですと、地元に戻ってから消防活動に出るっていうのはなかなか難しい中で、お勤め先がその地域であれば、すぐに活動も出来るのかなと思いますが、そういった形で、団員を確保していくというのはいかがでしょうか、実際やられているかもしれませんけれども。

#### 【事務局】

例えば、自宅から遠くにお勤めで、そここのところの分団に所属するといったことだと思いますが、長野市の条例では、自分の住んでいる地域又は、長野市内の勤めている先の分団に所属することができるという形になっています。何名かそういう方もいるのは、把握しております。これから団員を確保していくという中では、具体的にいい方策だと思いますので、さらに検討していきたいと思います。

#### 【委員】

日頃あまり消防団のことに関わることがないので、いろいろ実情聞かせていただいて、とても勉強になりました。本当に報酬の面も病院も一緒だと思いますが、お金の面だけではなくて、やりがいか、そういう意識を高めていくっていうところは、本当に大事だと思います。

#### 【委員】

私の車が全焼したのですが、その時、消防隊の方がすぐ駆けつけてくださいました。その時に女性の隊員の方が、ずっと寄り添って「大丈夫ですか、怖かったですよね、怪我ないですか」って声をかけていただいたときに、女性の優しさというか、寄り添えるっていう力が、すごく大きいと思って、その時にすごく安心感を得たところがありました。消防の方たちのお仕事っていうのは過酷でもあり、素晴らしいお仕事をされていて、本当にみんなの命を救っているのはありがたいです。なので、これからは是非、若手の女性も積極的に採用していただくと、また違った視点でいいのかなと思いました。

#### 【委員】

皆さんのお話をお伺いして、思い出したことがありました。小さな子供だけのイベント

のところ消防車が来て、消防のお仕事に憧れているお子さんも多いと思いますが、それが、だんだんといろんな夢が出てくることがあると思います。

最近、中学とか高校でもキャリア教育にすごく力を入れていて、職場体験など、地元の企業の方に協力いただいて、子供たちがいろんな体験をするようになってきています。その中で、学校に企業が出向いて、どんな仕事をしているか、話を聞くっていうところがあり、そういったときに、消防のお仕事を紹介しながら、いや実は、他の仕事をしながら消防団っていう仕事もあるというような、ボランティア活動を積極的なアピールする、そういった場面があってもいいのかなと思いました。そうした取り組み、積極的な参加があれば、子供たちも勉強になりますし、何年かすれば社会に出るようなお子さんが聞くと、また違って見えると思いますので、試していただければと思います。

#### 【議 長】

委員の皆さんから、様々なご意見をいただきました。多くの方に参加いただくため、日々御苦労されている事務局の皆さん方は、当然そういうところまでやっていただいていると思いますけれど、また新たな視点で、様々な立場での貴重な御意見をいただいたということでございますので。是非、参考にして、活かしていただければと思います。

例えば企業だとか、SNSとかですね、時代にあった新たな広報啓発活動、また子供たち、児童生徒の皆さんへのアピールとかですね、更に女性の方、それは参画も含めて、女性という視点も大切です。様々なキーワードがあったかと思いますので、ひとつでも具体化して進めていただければと思います。